令和元年度第２回
岡崎市こども発達センター関係機関連絡会議　会議録

日時	令和２年２月 18 日（火）　14：00～15:30
会場	岡崎市こども発達センター体育館棟　１階　研修室
出席委員	○日比野　雅彦　　◎早川　文雄　　水野　智之　　水野　周久　　丸山　健 野崎　敬子　　小林　亮　　平岩　ふみよ　　林　宏之（巽　奈津子委員代理） 青山　政美（坂田　勝彦委員代理）　本田　康英　　林　尚子　　寺澤　益実 （◎議長　○職務代理者）
欠席委員	大賀　肇　　巽　奈津子　　坂田　勝彦
傍聴者	０名
事務局	こども発達相談センター所長　杉浦　基司　　所長代理　山内　元彰 中田　純代　栞子　香織　小林　広美　松野　俊次　武田　正道　鈴木　裕一郎 こども発達医療センター所長　中村　みほ　　福本　由紀子 こども発達支援センター所長　加藤　里美
議題	1.　令和元年度各部会検討結果報告 ①早期支援開始検討部会報告 ②就園後支援体制検討部会報告 ③就学後支援体制検討部会報告 ④早期支援システム検討部会 ⑤にこにこきっずあり方検討会報告 2.　令和２年度の会議および部会での検討事項 ①次年度の連絡会議要綱および各部会の要領 ②早期支援開始検討部会 ③就園後支援体制検討部会 ④就学後支援体制検討部会 ⑤早期支援システム検討部会
内容	**議長あいさつ、職務代理指名** **議題１：令和元年度各部会検討結果報告** **事務局** 早期支援開始検討部会、就園後支援体制検討部会、就学後支援体制検討部会、早期支援システム検討部会、にこにこきっずあり方検討会について報告。 **委員** 就学後支援体制検討部会に関連することで、幼稚園、保育園から小学校への連携

	について、指導支援計画を私たちが書類作成するうえで、記録を学校に届けるという上で、どういったことをどのように学校に伝えるのが良いか。ひとつの子どもの行動でも見る視点で違ってくる。それを成長とみるか、課題とみるか、あるいは、困難と位置付けるか、子ども一人ひとりの個性ととるか、そういったことが非常に評価しにくい。どういったことをどのように、学校教育現場に何をつなげていったら良いか聞きたい。 **事務局** 　医療センターから紹介を受けたケースでは、保護者と共に、その子の実態を検査結果なども利用して把握し、保護者の了解のもとに学校への文書を一緒につくっている。医療センターや相談センターで検査した個別の検査結果をもとに、その子の実態を書いている。たとえば、この子はわかっているけどどうしてもうまくやれないというようなところ、わがままではないということや、うまくやりにくいようなところを、保護者と一緒に個別の指導計画を作成し、保護者了解のもとで学校に持っていく。医療センターでは、サポートブックを保護者の方と作成することがある。それに近いかたちで、少し教育より、学校の指導に使えるものが良いと思っている。学校には事前に、保護者とこの個別の指導計画案を使って相談をしてください、年度がかわったら担任とも相談をしてください、保護者がコピーを放課後デイサービス・医療機関に提示するのは保護者の判断です、ということを説明している。受け取る側の小学校や教育委員会側には、こういった文書・形式があるといいというのがあるとは思うが、こちらの実施していることを説明し、教育委員会にも内容を知っていてもらっている。 **委員** 　にこにこきっず２について、次の４月から相談センターが中心で実施すると聞いているが、にこにこきっず２は就園準備も実施しているので、今までは保育園や総合子育て支援センターからの紹介で利用される方が多く、利用までの期間も短かった。相談センターが中心になることで、専門相談経由になるなど利用が遅くなるのではないかということが気がかり。就園準備も変わらずあるが、どうして担当が相談センターに変わったのか。 　親子療育に関して、岡崎の場合は親子療育を実施しているところは２か所あり、一方の事業所ではこの４月から紹介されるお子さんがすごく少ないが、どのようなかたちで親御さんに紹介説明をされているか、そして見学の手順をとっているか。 **事務局** 　にこにこきっず２については、紹介経路、入口の部分が変わるのではないかということは、現場でも課題としてでている。現状、相談センターは発達に関しての相談を専門相談で実施しているが、次年度からのにこにこきっず２利用希望者は、専門相談とは別枠で、利用前面接をとにかく早く実施するというかたちで、スムーズに利用できるように検討している。また、総合子育て支援センターから、相談センターにどうして移管されるのかというところについては、現状にこにこきっず２を利用されるお子さんの半分が私立幼稚園へ入り、私立幼稚園に入ってからの園・地

	域での支援というのは、相談センターが実施している。年少から年長年齢のお子さんに関して、園・地域で過ごすところの支援を相談センターで一括してやっていこうという考えのもと、にこにこきっず２を相談センターに移行し、そこの部分の支援を充実させていきたいと考えている。 　親子通所の一方の事業所の利用希望が少ないのではないか、見学の案内がどうなっているかということについては、今年度は支援センターめばえさんも、こころんさんも親子通所の要否や優先順位の検討の場に入っていただいて、見学の枠が来月はこれだけあるとか、今このくらい定員があるとか、受け入れがこのくらいできるなど、タイムリーに会議の場で共有をさせてもらいながら、一緒に検討している。また紹介についても支援機関で差が出ないように、同じツールを利用しながら実施しているので、不均衡がないかたちでいけると思っているが、もし今後も現場で課題を感じられるようなら教えていただきたい。 **委員** 　めばえの利用希望ニーズと、実際のサプライ可能のバランスが破綻しているので、各機関で子どもさんをたくさん受け入れていただかないと、早期療育が進んでいかない。仕組みが何か問題があれば、早急に直していただきたい。 **議題２：令和２年度各部会での検討課題** **①次年度の連絡会議要綱および各部会の要領** **②早期支援開始検討部会** **③就園後支援体制検討部会** **④就学後支援体制検討部会** **⑤早期支援システム検討部会** **事務局** 　次年度の連絡会議要綱および各部会の要領、早期支援開始検討部会、就園後支援体制検討部会、就学後支援体制検討部会、早期支援システム検討部会について説明。 **委員** 　部会の中で、親子療育のキャパシティが現在不足している、将来的に不足していくのではないかということで、キャパシティの拡大に向けた議論をすべきだという提言があったかと思うが。 **事務局** 　私ども相談センターだけの問題ではなく、市全体で検討していかなくてはいけない大きな問題だと考えている。就園後支援体制検討部会の中でも、全数把握をしてニーズを把握しつつ、優先順位の検討をしていくというかたちであり、課題について実際どのように解決を進めていくかはまだ具体的にはなっていないが、十分必要があると考えているので、責任をもって検討できるようにしたいと考えている。 **委員** 　親子療育が十分に活用されていないというところがあるのなら、そちらを十分に活用していけばよいし、本当に不足しているなら増やすことをやらなければいけな

	いのではと思う。 **事務局** 　今実際に問題になっていることが何で、今ある資源を活用することで充足するだとか、新たに考えなくてはいけないとか、順番に検討していく必要があると考えている。 **委員** 　ぜひこの会議のひとつのテーマとして、継続して検討していただきたい。 **委員** 　めばえというと親子通所で２歳児が対象、３歳児は保育園・幼稚園・わかばへ行くと思っていたが、３歳児のめばえというのは、どのような療育・システムになっているのか。 **事務局** 　めばえは２歳児を中心に受け入れる体制をとっているが、利用を待たせてしまうなど、療育に通うのが２歳児といっても時期がとても遅くなっている。これからお子さんを育てていくための心構えや相談できる力等を保護者に身につけていただくのに、親子療育を経由していかれた方と、経由していない方とはかなり違うと思われることなどを考慮して、３歳であっても親子療育を３か月または６か月間ほどの間、しっかりと親子療育を体験していただけるようにという考えのもと３歳児めばえという形で年少年齢の親子を受け入れさせていただいている。 **委員** 　いろいろなお子さんをみていて思うのはやはり、特に親子療育を利用経験されている方とそうでない方とでは、違うと思う。通えるなら親子療育をしっかりと経験されたほうがいいと思う。 **議長** 　ぜひそうしたニーズにこたえて、いい機能となるように育てていただきたいと思う。本日の報告のご感想であったり、提言であったり、ご意見をいただければと思う。 **委員** 　早期支援システムを、機能させていくためには、利用者のニーズをいかに上手く受け取って、対応していけるかということが非常に大事だと思う。各機関でニーズをひろいあげていくうえで、工夫されていること実際やってみえることを、教えていただきたい。 **事務局** 　保護者の話をまずは聞いて、そこから保護者の支援ニーズを引き出していくようにこちらからもっていく。こちらから、あなたはこういうのが必要ですというのは、決定的なことは言わないようにしているが、予測できる支援については正しく情報提供と状況の説明をしている。 **事務局** 　支援ニーズはすごくたくさんあり、それをかなえられるように日々努力をしてい

	るが、かなえられないこともあるため、支援開始の段階で、保護者の話を聞きつつ、それについての現状や予測がつくことの説明も、はじめにちゃんとすることが必要と思っている。 **委員** 　いろんな支援や相談のパターンがあるが、にこにこきっず１では、必ず保護者と職員が個別に相談しまして、その中でどのようなニーズがあるかということを把握している。ほかには、事業について無記名でアンケートをとらせていただいて、色々な御意見をいただいて、それを反映させていくことをしている。 　専門相談の中では、保護者自体がどのような対応をしていいかわからない、支援ニーズが説明できない保護者さんもおられるので、その場合には私共から状況を説明して今後についてどう考えていくとよいか整理して支援を提案していくということもある。また支援の利用希望や実際のキャパシティ、支援要否判断が適正かなどについても、毎年データを把握したうえで資料を作成し、傾向等を分析している。 **委員** 　早期発見のシステムの中で、最初の部分で待っていただく方の待機期間が長くなってしまっている。そのため、システムの流れや支援時期などのかたちを少し見直そうということで、関係部署と協議し、レインボーの会などの仕組みを考えており、スムーズに移行できるようにしたいと考えている。われわれは親子を直接フォローする立場になるので、ある程度その子その子に応じて、どのような支援をあてるのか、どのような効果があがっているのかチェックするのも役目だと思っている。そのため、支援要否の確認項目をもう少し明確にし、この子に関してはこういうものが大事だというかたちで、定期的に各機関にもフォローしていただいて、それで関係機関との連携を深めていくというかたちで、整理していきたいと考えている。 　また、保育園でのこどもの状況や療育の利用状況、現状どの機関がどのようなことで関わっているのか、支援の結果どのように変化していているかということを、其々の支援機関が捕まえていないといけない。これは課題だと思いますけれども、そうした現状の情報がタイムリーに知ることができるような、情報共有の仕組み・システムがあればと考えている。 　課題になっている親子療育の不足、これはずっと慢性的に続いていると思う。キャパシティの問題も、マンパワーの問題もあると思うが、ニーズがある以上は何らかの対応を少しずつでも進めていかないといけないと思っている。 **委員** 　従来から、むし歯の治療だとか口腔内疾患の治療というのは、困難を伴うものであり、治すよりも守って育てていこうということが重点課題とされている。その中で、毎年度めばえさんで、歯科検診と保護者向けの歯科的な講話をさせていただいている。また今年度の３月は、にこにこきっずを利用する親子にも、歯科的な講話をさせていただくことになり、本当にありがたいと思っている。早くから歯科が親子に関わることで、将来の健康な口腔機能維持に貢献できたらと思っている。 **委員**

	前回この会議で、にこにこきっず１終了後や親子療育の待ちのお子さんがたくさんいらっしゃるということで、そこをなんとかしたいということで、当法人のボランティアで「ぷち」を再開しますということを話した。４月からは第１、第３金曜日と、第２土曜日に開始し、延べで 200 組の親子が参加された。新規の方が 31 組、ほとんどが保健師さんからの紹介で、年齢的には２歳４か月くらい。この３月の第２土曜日で今年度は終わる。残念ではあるがこれ以上、当法人のボランティアで「ぷち」の活動を続けていくことは無理ということになり、第１、第３の金曜日のぷちの活動は３月で終了する。第２土曜日については、４月以降も続ける。 **委員** 当法人でも子どもの療育については重要なことと認識し、センターでわかば・めばえを運営し、またいくつかの事業所で放課後等デイサービスも実施している。さらに４月からは、こども発達センターの西側で、発達支援センターすだちという施設をオープンさせていただき、児童発達支援事業を充実させる予定をしている。今後とも障がい者のみならず、障がい児も支援してきたいと考えている。 **委員** 私たちは、幼稚園で入園希望者が大勢の場合でも、定員はあるものの、次にどうしても受け入れるところがないということになると、なんとかしなくてはいけないと動く。来年度の地域園移行希望検討数が８名、移行が７名と数字があるところで、次元が違うかもしれないが、私は例えば希望者が 20 人の場合、何人受け入れられるだろうかと考える時に、この親子はどこかで受けていただける所があるかどうかというのを前提に考える。受けていただけなかったら、どうなってしまうのかと考え、その 20 名の方の受け入れを考えていく。公的な施設は、もう少し大勢の方の受け入れをしていってほしいし、また、利用決定が遅い時期になってしまう。色々な理由があると思うが、もう少し早い決定をと思うことがある。 また、民間のクラブやサークルなどが、支援を必要とする親子をフォローしているケースもたくさんある。市として把握できていない親子がどのくらいいて、どういうところがフォローしているか、フォローする力を持っているか、という調査をしていただけると良いと感じている。幼稚園では、少しフォローがいるという場合には診断がなくてもそういう保育をしていくが、就学してから診断を受ける子どもさんもあり、幼稚園でこういうことがあるかもしれませんよということを伝えて卒園した親御さんについては、親御さんの中で受け入れられるが、そうでないとショックというかたちで、就学してからハードルがどんどん上がっていってしまうということを何人かで経験している。発達センターもできて、進んできている岡崎市ですけれども、まだ支援に関して抜けている部分があるのかなということを感じている。民間が、まだどこにも所属していないフォローされていない親子を救っているところもあると感じている。 **委員** 保育園では、集団生活の中でお子さんたちが適切な育ちができるよう、いろんなまわりの子たちの、刺激や状況を受け取りながら、適切に育っていけるということ

	ができるようにと思っている。保育者も、それぞれ研修を利用したりして学びを深めているが、保育者が自身や周囲の中で育っていくことが、難しくなっているかなということを思うことがある。それは何かというと、保育者自身の就労期間が徐々に短縮していることもあり、積み上げてきた保育スキルがゼロになってしまう、適切に子どもたちに関わっていくという積み上げが、なかなか保育者自身ができづらいということなどが大きな問題になるかなと思っている。保育園としては、色々な研修会などで適切な子どもの育ちを支えさせていただいているということや、保育者自身の心構えをしっかりと持つことなどを伝えていくが、周囲の皆さんの支えによって保育士を育てていくことを続けていかなくてはならないかなと思っている。 **委員** 療育手帳等の判定をする時に、めばえを利用されている保護者の関わりを見ていて、上手だと感じたり、めばえで先生たちに支えてもらっている様子を、面接の際に感じる。療育を利用できるということは、保護者にとっては大きいことなのだということを普段から感じている。また、虐待相談だとか、養護相談になってくると、本当は支援を使ったほうがいいと思われる状況でも、ニーズが出てこない保護者もみえる。そういった時に保護者と寄り添いながら、支援につなげていけるようにしていけたらなと思っている。 **委員** 私共は、支援の入口となる１歳６か月児健診から関わるということで、今後はレインボーの会の設置についての課題検討をさせていただくかと思う。まだ検討段階というところだが、引き続き皆様方と課題や方法を検討させていただき、良いかたちで療育につなげていくというところを支えていきたい。また、地域での支援では担当の保健師が各支援機関と情報交換もさせていただきたいので、ご協力をお願いしたい。 **委員** 総合子育て支援センターは、発達支援・就園相談ということを保育課の方から総合子育て支援センターに機能を移行して、８年間やってきた。そのうち６年間自身が関わらせていただいた。相談センターに、にこにこきっず２が業務移管されるが、これはサービス低下ということではなく、市民からは窓口がわかりやすく、関係機関がより連携を強化していくための一環ですので、安心していただきたい。 **委員** 日頃は特別支援教育連携協議会などで、各関係機関の方々と情報共有をさせていただいている。早期からの切れ目ない支援ということで、義務教育の間については、個別の教育支援計画については、子どもたちの困り感を少しでも緩和できるものになるよう、保護者さんと合意形成の下で、現場でも専門性を高めていくためにも活用させていただいている。 また、通常学級の担任についても、発達障害についての専門的な理解を深めていくことができる研修も積み上げている。通常学級での発達障害のお子さんについて、どの様に大きな集団の中で育てていけばいいのかというところが課題であがってき

	ている。また i-Pad をひとりひとり利用できるようにするなどもでてきているので環境面も整備し、お子様たちの困り感を少しでも緩和できていけるようにしていけたらと様々なところで検討している。 **委員** 　知的にレベルの高い特別支援学級がテスト的に始まると聞いた。 **委員** 　今まではどちらかというと不登校対策としての部分がメインであったのもの、多様性に対応できるようにといったところで、すべてにすぐに対応できるというところではないが、少しずつ試験的に進めていきながら、様々なニーズにこたえていけるように研究したいと考えている。 **委員** 　３年間会議に参加させいただいて、皆さん熱い議論をされて、今日も落ち着いてすごく良い雰囲気の会議だと思っている。これも皆さんが、お互いに一生懸命に良いセンターをつくりたいという熱意があっての賜物だと思っている。センターのメインコンセプトということで、スーパーマンに依存しないシステムという意味は、全員でセンターをつくりあげる、そういう意味だなと、そういうことを言っているのだなと思っている。もう一点のコンセプトとして、すぐに利用できるシステムというのは、敷居が低くて安心して皆が利用しやすいセンターということで、この２つを立派につくられた成果が今日あるのだと思っている。
事務局 連絡	次回は令和２年７月 14 日 14 時から こども発達センター体育館棟研修室で開催予定。